

Asagga



JMA グループの最新情報をお届けする広報誌 **あさがお**



海老名総合病院 心臓血管センター 心臓血管外科

オフポンプ冠動脈バイパス手術



INDEX

- 高齢化医療圏の地域包括ケア
下田メディカルセンター
公立病院の責任と期待
- 開院から半年を経て
座間総合病院
救急搬送率の変化

- 介護ロボット公開事業所に認定
介護老人保健施設 アゼリア
地域介護業界への貢献
- ラジオ番組 放送中
JMA グループ
FMカオン×JMA コラボ番組

埼玉地区

- 医 療** 東埼玉総合病院
埼玉県幸手市吉野 517-5 TEL:0480-40-1311
- 東埼玉総合病院附属 清地クリニック
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 5-1-2 TEL:0480-37-2511
- 特別養護老人ホーム はなみずき
埼玉県北葛飾郡杉戸町大字茨島 731-1 TEL:0480-37-4165
- 居宅介護支援事業所 ケアネット東埼玉こころ
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-33-2292
- 居宅介護支援事業所 ケアネット東埼玉あゆみ
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-33-2838
- 福 祉** 訪問看護事業所 JMA 東埼玉訪問看護ステーション 東埼玉総合病院内
埼玉県幸手市吉野 517-5 TEL:0480-53-8471
- 訪問介護事業所 ヘルパーネット東埼玉
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-31-0561
- 福祉用具貸与・販売事業所 ケアレンタル東埼玉
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 5-1-2 TEL:0480-32-2517
- 通所介護事業所 デイサービス東埼玉
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-34-2063
- 通所リハビリテーション事業所
東埼玉総合病院附属清地クリニック 通所リハビリセンター
埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 5-1-2 TEL:0480-37-3711
- 保 育** 認可保育所 わかば保育園
埼玉県北葛飾郡杉戸町倉松 700 TEL:0480-34-8474

横浜地区

- 福 祉** 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
介護老人保健施設 コスモス
神奈川県横浜市磯子区滝頭 1-2-1 TEL:045-751-4165
- 居宅介護支援事業所 ケアネット磯子 介護老人保健施設 コスモス内
神奈川県横浜市磯子区滝頭 1-2-1 TEL:045-750-0086

静岡地区

- 医 療** 下田メディカルセンター
静岡県下田市 6-4-10 TEL:0558-25-2525
- 下田メディカルセンター附属 みなとクリニック
静岡県加茂郡南伊豆町湊 674 TEL:0558-62-0005
- しらはまクリニック
静岡県下田市白浜 1528-2 TEL:0558-27-3700
- 福 祉** 介護老人保健施設 なぎさ園
静岡県加茂郡南伊豆町湊 674 TEL:0558-62-6800

海老名・座間地区

- 医 療** 海老名総合病院
神奈川県海老名市河原口 1320 TEL:046-233-1311
- 座間総合病院
神奈川県座間市相武台 1-50-1 TEL:046-251-1311
- 海老名メディカルプラザ
神奈川県海老名市中新田 439-1 TEL:046-292-0222
- 海老名メディカルサポートクリニック
神奈川県海老名市河原口 1519 TEL:046-235-1311
- 海老名ケアサポートセンター
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- 今里クリニック 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-8222
- 保 健** ヘルスサポートセンター 海老名メディカルサポートクリニック内
神奈川県海老名市河原口 1519 TEL:046-292-1311
- 介護老人保健施設 アゼリア
神奈川県海老名市河原口 1357-1 TEL:046-231-1311
- 特別養護老人ホーム さつき
神奈川県海老名市河原口 1383 TEL:046-232-1318
- 特別養護老人ホーム シェ・モア
神奈川県海老名市河原口 1581 TEL:046-236-1318
- 特別養護老人ホーム 和心
神奈川県海老名市大谷南 3-20-15 TEL:046-236-4165
- 特別養護老人ホーム 陽だまり
神奈川県海老名市社家 505 TEL:046-237-4165
- 居宅介護支援事業所 ケアネット海老名第1 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-292-1540
- 居宅介護支援事業所 ケアネット海老名第2 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-234-7480
- 訪問看護事業所 JMA 海老名訪問看護ステーション 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-235-5955
- 訪問介護事業所 ヘルパーネット海老名 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-292-3288
- 福祉用具貸与・販売・住宅改修事業所 ケアレンタル海老名 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-235-7012
- 介護在宅事業所 今里リハビリステーション 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- 介護在宅事業所 今里ヘルパーステーション 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- サービス付き高齢者向け住宅 カサボニータ海老名 海老名ケアサポートセンター内
神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- 地域包括支援センター 海老名東地域包括支援センター
神奈川県海老名市東柏ヶ谷 3-5-1 ウェルストーン相模野102号
TEL:046-292-1411
- 地域包括支援センター 海老名中央地域包括支援センター 海老名メディカルサポートクリニック内
神奈川県海老名市河原口 1519 TEL:046-234-2973
- 保 育** 認可保育所 すこやかハウス
神奈川県海老名市河原口 1599-1 TEL:046-234-4152

「あさがお」2016年<vol.14>
発行日：2016年12月

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
神奈川県海老名市河原口1519 海老名メディカルサポートクリニック内
本部 広報部 TEL:046-235-0765



心臓の鼓動を止めることなく、心臓の血管を手術する。



細い血管を縫合する冠動脈バイパス手術で使用される医療用の拡大鏡

最新治療
レポート

高齢化、合併症のハイリスク症例に対応 オフポンプ冠動脈バイパス手術

海老名総合病院 心臓血管センター 心臓血管外科

患者の高齢化で手術のリスクが高くなっている今、
人工心肺を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術（オフポンプ CABG）だから
治療できる症例が増えてきたという。循環器内科とのチーム医療も特色だ。

脳梗塞リスクの低い 術式を採用

海老名総合病院の心臓血管外科では虚血性心疾患の外科治療において人工心肺を使用しないオフポンプ方式による冠動脈バイパス手術を標準術式としている。早くからオフポンプの術式に取り組んできた心臓血管センター長の贅正基は「当院では、ほぼすべての手術をオフポンプで実施しています」と説明する。国内における冠動脈バイパス手術は20年ほど前から普及が始まり、今では冠動脈バイパス手術でオフポンプ方式が半数以上になっている。同院では100%近い実施率だ。

この術式を採用する理由については「オフポンプの方が身体への負担が少なく、入院日数も少なくて済みます」と話す。「人工心肺装置を使用すると、普段とは違った血流になります。バイパス手術が成功して、血流再開したときに血管内の粥腫が飛んで、脳梗塞になることが心配です。そのため、人工心肺装置を使わないようになりました」。

オフポンプだから 高齢患者に適用できる

虚血性心疾患の場合、下肢な

外科×内科の 心臓血管センター

また同院では心臓外科医4名と循環器内科医10名がひとつのチームとなり「心臓血管センター」として治療していることも特色の一つだ。毎朝、外科医と内科医によるカンファレンスで患者の治療方針が検討されている。

「当院の循環器内科は技術が高いので多くのケースは心臓カテーテルで治療できます。そのため心臓血管外科は重症化している患者を担当することが増えています。内科と外科で良い連携ができてい

どの血管にも狭窄があるという患者は多い。血管の状態も加齢の影響を受けるが、「オフポンプ方式は80歳以上の高齢患者にも適用できます」。高齢になると血管は細くなり、手術の難易度が高くなる。通常は2ミリの血管を縫合するところ、1ミリの細い血管を完全につながらなくてはならないからだ。同じように糖尿病患者は細い枯枝状血管になっている。

「透析患者は閉塞性動脈硬化症のケースが多いし、糖尿病では動脈硬化が目立つので難しい手術になりやすいですね」。

それだけオフポンプ方式の執刀医にはかつてよりも高い技術が求められる。一般的な術式になったが、高齢化で手術の難易度は高くなっている。

心臓カテーテルで 治療が難しい重症例

冠動脈の閉塞ですべての患者がバイパス手術の適用になるわけではない。心臓血管センターの外来を受診した患者で、治療が必要な病変がある場合、循環器内科で心臓カテーテルによるステント留置術が第一選択となるケースが多い。医療機器や薬

ので、適切な治療法を提案することができます」。

低侵襲の小切開冠動脈 バイパス術 MIDCAB

心臓血管外科では低侵襲の術式にも取り組んでいる。左側の肋間を10数センチほど切開して、そこからオフポンプで手術する小切開冠動脈バイパス術（MIDCAB）だ。通常のバイパス手術は胸骨を切開するが、傷が小さいので術後の回復が早い。適用できる条件は限られているが、患者の負担が少ない治療法として充実している。



このカンファレンスルームで内科外科の症例検討が行われている。



術後、早期に心臓リハビリテーションを実施している。



海老名総合病院
心臓血管センター長 贅 正基

平成16年、東日本循環器病院に心臓血管外科部長として赴任。平成19年、海老名総合病院心臓血管センター長となる。現在、海老名総合病院副院長。当法人に着任後、現在までに1,000例以上の心臓血管手術（虚血性心疾患、心臓弁膜症、胸部大動脈疾患、先天性心疾患など）に携わる。

海老名総合病院

〒243-0433 神奈川県海老名市河原口 1320
TEL.046-233-1311

下田メディカルセンター

〒415-0026 静岡県下田市 6-4-10
TEL.0558-25-2525



interview

公立病院の責任と期待

救急医療から在宅ケアまで全フェーズ対応 高齢化医療圏の地域包括ケアをリードする

下田メディカルセンターは伊豆半島南部の1市5町にまたがる賀茂医療圏で救急医療から在宅ケアを担う公立病院です。患者の求めている医療を目指して、超高齢化に対応するための医療と介護の連携に取り組んでいます。地域包括ケア病床も設置し、中核病院として在宅ケアをバックアップしています。

公立病院として救急医療を担う

下田メディカルセンターのある賀茂地区の高齢化率は38.7%。高齢化が進んでいるけれど医療や介護福祉は充分とはいえません。そうしたなかで、地元からは特に救急医療に取り組んで欲しいと強く期待されています。これまで多くの患者さんが天城峠を越えて大学病院まで行かなければならなかったからです。

現在年間1,000件から1,200件ほどの救急車を受け入れています。この地域における出動台数の4割弱です。スタッフ体制を充実させて、より多く受け入れたいですね。

伊豆半島南部、賀茂医療圏1市5町において、地理的にも中心に立地している公立病院なので、下田メディカルセンターが元気でなければ、医療圏が十分に機能しません。

病院同士が連携している

伊豆半島南部は山によって3つのエリアに分かれています。そのエリアごとに下田メディカルセンターのほか、西伊豆健育会病院と伊豆今井浜病院があります。この3病院が連携して地域の急性期医療を担っています。

それぞれの病院には得意分野があり、下田メディカルセンターには脳神経外科や消化器外科の専門医がいます。そしてこの秋から心臓カテーテル治療を一部始めました。ほかの病院には泌尿器科、脊椎が得意な整形外科医などがいます。

人口密度が低いので、ひとつの病院ですべての専門医療を提供するのは効率的ではありません。そこで目指しているのは3病院を合わせるといろいろな疾病の専門医がいて、患者を紹介し合える病棟連携です。医療圏全体でみると専門医療に対応できているという地域包括医療が理想的です。

医療圏の中核病院としては診療所と

高齢者の在宅復帰を支援する

救急も含めて高齢の患者さんが目立ちます。そのため公立病院としては、急性期のみならず医療資源の少ない回復期や慢性期といった、すべての医療フェーズに対応していく必要があります。

平成28年4月には地域包括ケア病床を開設しました。回復期リハビリテーション病棟は以前からありますが、対象疾病が限定されています。そこで急性期医療と在宅療養を橋渡しするための病院機能を強化しました。

この地域包括ケア病床では在宅ケアで生活している要介護高齢者の看取りにも対応しています。診療所の先生方も高齢化していて24時間対応が難しくなっているため、地域の診療所と連携しながら在宅医療をサポートしています。

この関係づくりも大切です。昨年からの先生方を招いて「イブニングセミナー」を定期的に開催してきました。外部の専門医による講演のほか、下田メディカルセンターの医師も症例発表をして、地域の医療者に顔を覚えてもらえるように取り組んできました。

市民や地域と歩む

退院支援などを担っている地域医療連携室は今の病院にとっては最重要部門の1つです。社会福祉士3名と事務職1名が在宅ケアへの引き継ぎや、転院のお手伝いをしています。

また隔月で市民向けのメディカル健康講座を開催しています。毎回、50名ほどの参加があり、私は認知症の講座を担当させていただきました。これまで癌治療や骨粗鬆症といったテーマが人気でした。この講座に参加して、下田メディカルセンターでどのような医療が提供されているのかを知っていただきたいのです。

地域の医療と介護福祉をつなげる

他の医療機関、介護福祉の事業者、そして行政と地域包括ケアシステムの構築・充実に取り組んでいます。昨年までの2年間、在宅医療介護連携推進協議会で医療圏における連携ネットワークづくりをすすめてきました。市民の皆さんを対象とした在宅医療介護についての講演会を開催したほか、医療福祉ガイドマップを制作して全戸配布しました。

また医療と介護福祉の関係者による多職種勉強会をすることで、顔の見える関係ができています。さらに今年度、院内に「賀茂地区在宅医療介護連携推進支援センター」を設置しました。専従の社会福祉士が1市5町にまたがる賀茂医療圏の病棟連携や医療介護連携のコーディネート業務を担っています。

医療設備的にはかなりハイスペックですが、そのこともまだまだあまり知られていないからです。

公立病院としてはそこで勤務する医療者が何をやりたいかではなく、地域のみなさんが求める医療を提供することが大切だと考えています。その意味では当院は今まで以上に在宅医療にも積極的に取り組まなくてはなりません。訪問介護ステーションの併設等も視野に入れていますが、それに必要な人材が確保できません。やりたい医療、やらなくてはいけない医療の姿は見えているのに人がいないためにできない無念を感じています。地元住民の皆さまが熱い期待を寄せる、医療人としてやりがいのある公立病院で共に働いてくれる方を切に求めています。



在宅医療介護推進協議会で制作したガイドブックには、医療、歯科のほか介護保健サービスや障害者福祉サービスも掲載した。

昨年まで取り組んできた在宅医療介護推進協議会。今年度から常設機関の賀茂地区在宅医療介護連携推進支援センターとして活動を発展させている。



下田メディカルセンター 病院長 畑田 淳一

32年に及ぶ海上自衛隊勤務を経て、平成23年9月入職。脳外科医として脳卒中急性期診療を行うとともに、認知症診療にも積極的に取り組む。平成27年4月に現職。高齢化率の高い地域の中核的公立病院の充実に奮闘中である。



介護老人保健施設 アゼリア

〒243-0433 神奈川県海老名市河原口 1357-1
TEL.046-231-1311



FM カオン 84.2MHz コラボ番組

放送中

県央の戦うドクトル 「チーム・ジャパンメディカルアライアンス」

毎週月曜日 19:30~20:00

JMA 法人ホームページで過去の放送分を視聴できます。
http://www.jinai.jp/release_kaon_radio_backno.html
平成29年3月27日(月)迄放送



座間総合病院

〒252-0011 神奈川県座間市相武台1-50-1
TEL.046-251-1311



介護ロボットの公開事業所に認定

介護老人保健施設アゼリアは、平成28年9月27日に神奈川県と「介護ロボット普及推進センター事業に関する協定」を締結しました。神奈川県では3施設目、介護老人保健施設としては初の公開事業所となります。今後は協定に基づき、介護ロボットの使用・評価や視察・見学者の受け入れを行っていきます。

「コケニバイク」、他動的に手指関節の屈伸運動を行う、リハビリ支援の「パワーアシストハンド」、入居者の居室内の状況確認を行う「シルエット見守りセンサ」の3つです。介護ロボットの普及は、サービスの質の向上や職員の負担軽減につながるため、この取り組みを通して、地域や介護業界に少しでも貢献できればと考えています。

導入するロボットは、認知症リスクを軽減するためのバイク型の運動機器

interview

開院から半年。座間総合病院が今、思うこと。

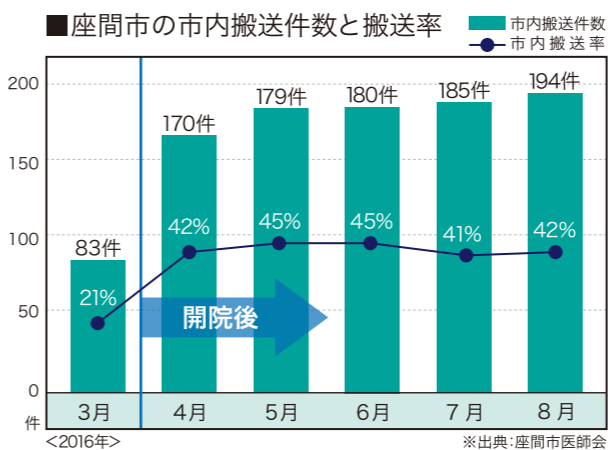
神奈川県県央医療圏に、平成28年4月1日に開院した座間総合病院。「総合診療科を中核とした救急医療」、「人工関節・リウマチセンター」、「リハビリテーションの強化」という3つの特長を柱にしている。開院して半年、特長としてうたっている「救急医療」について、渡病院長に聞いた。



座間総合病院
院長 渡 潤

平成13年、海老名総合病院に入職。同院で放射線科部長や副院長職を歴任後、今年4月より座間総合病院 院長に就任。専門は放射線科、特にCT・MRIなどの画像診断。さらに30年の長きに渡り、検査業務に携わる。

座間総合病院の開院目標の一つに、座間市の救急搬送率の改善があった。それまでの座間市における救急搬送の市内搬送率は約20%、約70%が、隣の海老名市や大和市、厚木市に搬送されている状況の背景には、受け皿となる二次救急医療病院が2つ、という座間市の救急医療の手薄さがあった。渡病院長は「自身が住むまちにある病院で診てもらえる安心感を持ち、患者と家族が『座間に住んでよかったです』と思える病院を目指したい」と考えています。座間市内で二次救急医療病院として頑張ってきた病院が作り上げてきた土台があったから、私たちが加わる意味が大きくなったんです」と語る。実際に座間市の救急車搬送件数は、この数カ月で徐々に変化を見せている。「患者獲得競争ではなく、当院が患者を受け入れれば、その分、ほかの病院の負担が減る。そうならば、ほかの病院では診療の質を更に



アップすることに専念し、患者に喜んでもらえることになる」。地域の医療水準を高めるには、一つの病院では完結しない。医療関係者同士の協力による相乗効果が必要、と捉えている。連携といえば、病院内に座間市消防本部の救急隊員3名が、月々金曜の9時から17時まで常駐する「救急ワークステーション」を設けたことも座間総合病院の強み。救急搬送入り口のそばには平日、救急車が1台待機している。今後は、指令が来ると医師を同乗させて搬送に向かい、病院到着までに必要な処置を施す、「ドクターヘリの地上版」を目指し、更なる救急医療の充実に力を注いでいきたいと考えている。

FMカオン×JMAコラボ番組

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス(JMA)は、平成28年10月3日よりコミュニティラジオ局FMカオン84.2MHzとのコラボ番組「県央の戦うドクトル「チーム・ジャパンメディカルアライアンス」」を放送しています。FMカオンは神奈川県県央地域に密着した放送局です。JMAは同じ放送域で海老名総合病院や座間総合病院などの施設を運営しています。地域の方々から全幅の信頼をもって

「選ばれる」には、まず相手から存在を「認知」されることが重要であると考えています。今回のラジオ放送を通じて、一人でも多くの方々に、従来伝わることのなかった病院独自の取り組みや、家庭の医学・健康についての情報提供、医師や看護師の人物を伝える人物紹介や思いの曲を紹介することで、「信頼」や「安心感」に繋がればと考えております。是非機会があれば放送を聴いてみて下さい。